

# 觀自在

弘長寺寺報  
第十九号  
平成二十一年八月

## 弘長禪寺第三墓地

### 新規造成完了

弘長寺住職 森田裕光

お知らせしておりましたように、阿弥陀堂横の駐車場を墓地に造成いたしました。

造成工事は、お檀家様の「飯塚組」にお願いいたしました。非常に良心的で丁寧な工事をしていただき、立派な墓苑となりました。

大小二種類の区画、六十八区画を用意しました。

大	3m × 2・5m (7・5 <sup>2</sup> m)	四十七区画
小	2・7m × 2・3 (6・2 <sup>2</sup> m)	二十一区画
大	四十万円	小：三十五万円

墓地の環境は最高です。

境内地の中にある、隣接する本堂や阿弥陀堂にもそのままお詣りでき、大梵鐘の音・本堂からの読経の声が聞こえます。宍道湖や国道にも近い、車から降りて、すぐ目の前がフラットな墓地ですので、車イスでも楽にお参り出来ます。

(墓地にした大駐車場の代替駐車場を、今冬お寺の北側に造成予定です。)

お檀家様か、檀家にお入りただく方のみを対象としています。既に数件の予約申し込みがあり、将来入檀を予定される方も一人ございます。

他宗派や他宗教の方の問い合わせも既にございましたが、お断りをしております。

お墓を多く売ることよりも、檀家数が増えることに重きを置いたいと思っています。

新聞チラシを作成して、近隣でお檀家様の多数おられる来待・穴道・玉湯に配らせていただきました。お墓をお探しの方には是非お勧め下さい。

昔は高い場所、山の奥深い寂しいところがお墓の立地条件として最適と思われていたようですが、現代では全く不適応であると言わざるを得ません。(お年を召されればなおさらです)



七月末日完成予定 写真は七月二十日撮影

## ||菩提寺を

たいせつに||

弘長寺護持会  
会長 武田民三

しだ  
ごでまはかる梅  
ごりさ。言こ雨  
ごるに。暑い暑  
ごるです。うがな  
ごる地を球環  
ごる感じが常のと  
ごる病

し正寺定曹会弘年  
たを護第洞へ長五さ  
ご持三宗總寺月て、  
決会条寺会護二  
議会に院持十昨  
い則拝護に会五年  
たのり持お地日平  
だ一、会い区開成  
き部弘のて委催二  
ま改長規、員の十

しがり員日がに  
げ、名不会のよそ  
ま固を肖で二本の  
ましくい私あ十年本改  
た。ごたにり一去会正  
辞だ会、年る役さ  
退き長方度五員れ  
をま職丈地月のた  
申しの様区十改会  
したごよ委七選則

中の長は今、  
心檢寺、  
に討本將私  
すが堂來た  
すめ方耐残の  
られ丈震す菩  
てさ修べ提  
おま改く寺  
を築弘で



くつを意さ  
こも賜向ま  
ことに受  
いたしまし  
た。だつ言  
申ままり力の  
何卒よろしく  
申し上げま  
ります。決責  
意務微ごは、  
を力理を果で解  
護たはご持  
ししあ協会

だでと心て いるさい自は一一でそ  
きあいの一理佛てとれる分な体 あし自知人  
まるうなつ屈教き感てののいでそりて分る間  
すと実かひだのま謝いで力 あの神のことは  
も践にとけ世 するはだとり大一佛命、  
教が落つて界 気生なけ知 き即の他  
えたとをはは 持命くでる い多命  
ていす自な ち 生と一生・との  
いせ 分く決 がで生きき人命多一命、  
たつ のし わあかて でと即体

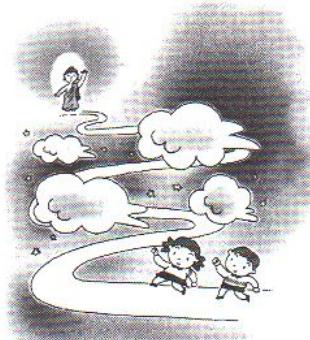
い養自 とをそをの  
う分そ教知の越世宗  
こをれえる眼え界  
はらはこにたは  
と見世 佛教  
がえ界五  
曹洞 重世り六宗  
ら察しす。重世り六宗  
れ力ての 要界 感

らす歴史れ  
かれます。  
いなす事業檀  
が考え残

ま段 いえ子子いを  
すは見こをや孫だい遠  
が認めと理孫にいだい  
識なで解たし残のき昔  
仮でいす。しち伝をこら  
き世の前でいは、  
い普 い正るてしに将受ご  
ほいは来け先  
し教の継祖



でれうくごれりてかでた縁  
きて不私先ぞ いらもま  
まい思達祖れ同る深他生  
する議はをのじとい  
とな 祀皆菩い因  
知ご縁つさ提  
る縁生てま寺こでの  
こで い檀にと結世  
と結とた家、ではば界  
がばいだのそあれ



合掌

うとごどお願い申しあげます。よ解  
うとごど思護ろ想私り方  
うとごどい持とい達つ丈  
うとごどましします。生菩、ま  
うとごどま皆命提弘  
うとごどいさの寺長ご  
うとごどりま拠を寺教  
うとごどたとり大と示  
うとごどい共ど切いを

す存か。す認がをとえ生る先  
す存か。す識で感のてまと祖  
す存か。すすきじ、いれ  
す存か。すが、生たて自ま  
す存か。すが、生感命だく分に  
す存か。すが、命謝のいるが合  
す存か。すが、のすつたごこ掌  
す存か。すが、で尊るなご縁のし  
す存か。すが、きさこが先を世  
す存か。すが、まをとり祖与にい

菩提寺「弘長寺」が、

りるあた祈在なも史私題  
難こる阿。り・が相のたがこ  
いと墨弥続未ら携中ち多の  
こが書陀け来、えでのく頃、  
とでか尊てのひ、苦祖あ  
できら像ま平た励し先り兎  
す。まものい穩すまいもま角  
す伺胎り無らし時長す暗  
い内ま事に合代いがい  
有知にしを現いに歴、話

たですゆた  
。きがつ阿さ  
るすたア弥陀堂  
よがりと先年兼位  
うしとし建堂は  
にくくした牌堂  
なり祈中建堂は  
まりには、れ  
しがも

まよらをお  
す。し者たてき  
るぬいいさ  
くでだ副護持  
お願ざまの会  
いいしの総  
いたす指会  
しが至名に

弘長寺護持会 副会長坂本研次

ごあいさつ

しこ 就会てに  
、の微任長、伴去  
そ上力い理思うる  
のはでた事い役  
責会はしまが改の  
務様を果を補す  
を樣を果を補す  
し佐がし佐が

弘長寺護持会 副会長内田松寿

ごあいさつ



合掌

すぎ未  
を捧げ  
ことを願  
たいと思  
います。  
力まら

すげござ  
。協まへ  
ご力の弘  
挨を一長  
拶お層寺  
と願の  
いいご護  
た申支持  
合しし援会  
合掌ま上と皆

い実でいき心  
ま践もをるを命で如心い件傷子  
すし実いこ取の  
て行たとり大  
い出しの戻切  
き来、大しさ  
たる少切、や  
い事しさ今信  
とかずにを仰  
思らつ思生の

い欠のて事殺  
ししやまがす供  
よて感す近るが  
うい謝が隣な父  
かるの、でど親  
の気思も痛を  
でもい起ま凶  
はちやこし器  
ながりついで

ていく覚悟であります。  
てく。「観自在」の原稿を書  
寺く  
強ぶり問知し・『葬儀上』  
にこと仏がなうか』の法話  
になりが様明つ等達話』  
ました。『えにと人々にや  
大等なや今な『變をつ、まり法

お知らせ  
●護持会役員改選

新しい護持会地区委員の皆さんです。この中から、先の通り役員が決まりました。

和名	佐	横	柳	久	浜	浜	中	大	大	小	宋	池	鏡	地区
内田	磯弘	渡部	伊藤	井	戸	東	垣	野	谷	松	道	田	勝	氏名
監	事	勝部	土江	見	坂本	西	伊藤	伊藤	伊藤	石田	青木	五百川	江澄雄	勝部
内田	磯弘	渡部	伊藤	井	戸	東	西	伊藤	伊藤	石田	青木	五百川	江澄雄	勝部

お願い

★本堂耐震修改築検討最終本委員会を先の日程で開催いたしました。

平成二十一年三月二十八日 午後二時於書院

出席十七名 欠席九名  
業者カナメ 二名

○(株)カナメの担当者から説明を受ける(今回は機械による本堂再調査の結果説明)

★六〇八ページに写真入り結果説明を一部掲載しました。

一、再調査の写真をご覧に、根裏には屋根重量に対し非常に粗末で、危険なもので在ることが判明しました。

一、瓦と比較すれば、カナメの銅屋根は重量が十分で充分な耐震対策にない。(重量比較表を参照)

一、現在銅の値段が下がつており、チャンスである。(安値の時に、銅だけを先に確保しておいたらどう

かとの意見も出た)

一、銅屋根にした場合、屋根部分だけの見積もりは現時点では三千七百万円位とのこと。(銅の時価により変動)

一、天井から上の部分はカナメ、天井から下の部分と開山堂は地元の業者に分担する。

一、諸々の説明を受け、なるべく早急に着工すべく護持会に提案することを、全員の力強い拍手で賛同した。

一、以上の内容で検討委員会を解散致しました。

・検討委員会の内容を臨時総会に提案いたします。

●盆棚経は、久戸地区まで終了しました。今年は大森からスタート、横見一大野—菅原・和名佐—大谷—柳井—宍道—弘長寺—鏡と廻ります。朝七時より夕六時迄、いつものようにお廻れるとここまで、十四日は初盆のお宅に参ります。

時間指定はできません。

葬儀が出来た場合は葬儀優先です。(十四日を除く)

N T T・インターネットのホームページを作りました。

ホームページアドレスは左記の通り。

携帯電話でも二次元バーコードから読み取れます。(機種によります)

新しく墓地を造りましたが、資金は法人で都合をつけました。一定の区画数が埋まれば、それから先は法人の利益となつてていきます。

●総持寺団体参拝は、鏡・土江・昭氏と寺族、計三名参加。

梅花流全国奉詠大会大阪会場は、インフルエンザの為、急遽中止となり、来年に延期されました。

(農地転用申請中)

<http://ntbj.jp.ne.jp/0852660128/>



携帯から  
(のバーコードで  
読み取れます)

## 住職は考える

宗派とは何か?②

（住職の独り言）

（住職のタブーに挑む）

（住職の独り言）  
道元禅師様は、曹洞宗はお釈迦様から正しく伝えられた仏法だから正法であるとお示しであります。

お釈迦様がお悟りを開かれた坐禅は最上唯一の修行法であり、坐禅によつて日常のあらゆる行動や思索が整えられると説かれます。

開祖でありますからそうお説きになるのは当然です。

もし別の問い合わせられる場合は正法ではないのでしょうか。そして正法でなければ仏法ではないのでしようか。

お釈迦様がお悟りを開かれた坐禅でなく、念佛や唱題行で

あつても、仏様を信じることができれば、それも立派な正法だと思います。

人それぞれ能力が違ひ機根が違うのですから、誰もが必ず最高の境地に至らなくてはなりません」ということではありません。

強制など無論できません。

お檀家様にとつて不幸なことは、自分にピッタリ合つた、自分に好みの修行法や仏様を抱える宗派を、最初から選ぶことが

お檀家様にとつて不幸なことは、自分がおられるなどと思つてゐる方があつたら、誰もが必ず最も高い境地に至らなくてはならないといふことではありません。

江戸時代から幕府時代に勝手に決まつた宗派を既家政と云います。それはよく言えば「ご縁」といふべきです。

松江在住のある方が、「親戚が、『我が宗派が仏教宗派の中では一番です』とお説教をした。」  
『そりやおかしいだろう』と思ふておつしやつてました。

往々にして昔からの檀家であるというしがらみを人質?として高圧的な態度でお檀家様に臨まれる宗侶を時々見かけて考えさせられます。

江戸時代から何代も我が家に伝えられてきましたが、

て寺檀という関係が成り立つています。

菩提寺と檀家という関係を崩すということは、保守・伝統を重んじる地方の方にとつてはおそらく相当の勇気がいることではあります。

私が言いたいのは、寺院住職

はそのしがらみに対し、もつと謙虚になるべきであります。

宗派(仏教は十三宗もある)の中の一宗派に過ぎないと、この配りがもつと必要ではないかと

思ふのです。

佛教とは、お釈迦様以来、差別と人権に対する闘いの歴史であります。

人権を最重要課題とすべき僧侶は、徹底的に相手(お檀家)の気持ちを思い量るべきであります。



しかし、曹洞宗の坐禅は一見解りやすく、(仏の真似をすれば仏)、実際に正しく行じようとするべどつもなく難解で奥が深く、難行です。(目的を持つてはいけない、悟ろうと思ってもいけない、思考を停止して、考えないところを考えよとのお言葉は、正に禅問答ですよね。)

次号につづく

カナメ

## 本堂調査報告一

◎普段住職でも入ったことのない場所を撮影調査していただきました。

- 最初の調査は視認調査でしたが、今回は機械を導入しての調査となりました。
- 屋根の下、小屋裏が意外とお粗末なので驚きました。
- わら葺きや屋根からの瓦に替えた時に、重量対策が取られていなかつたところです。

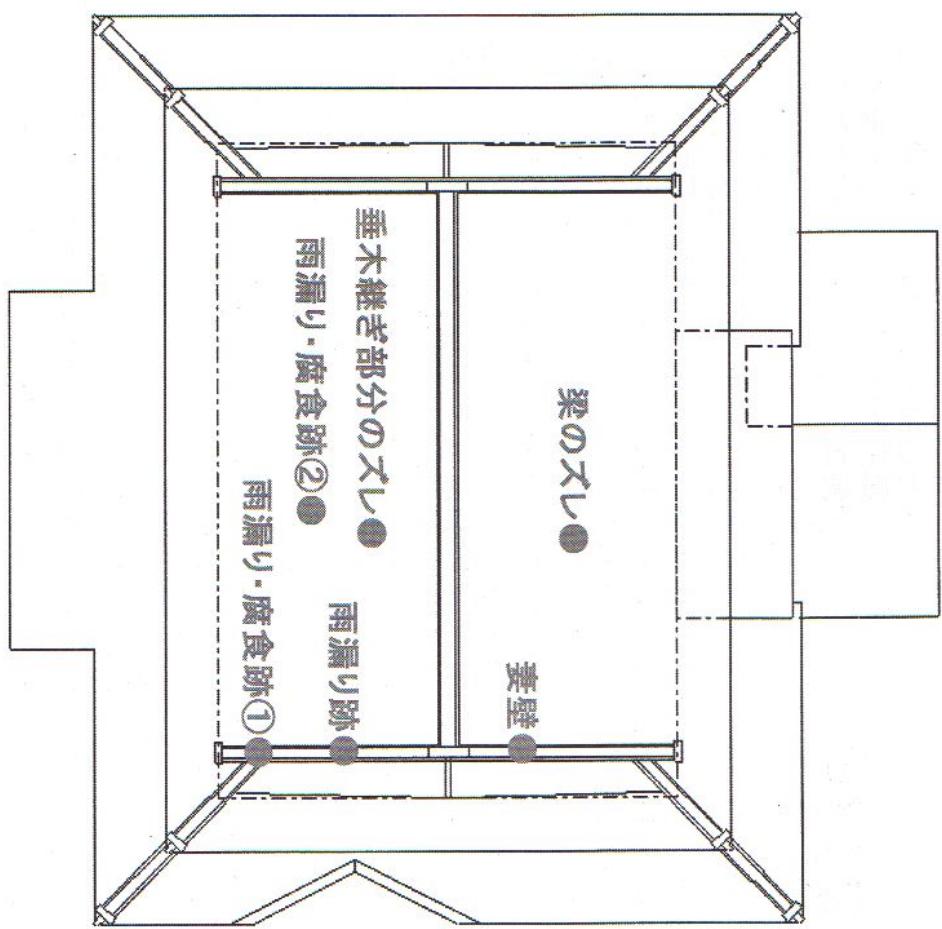


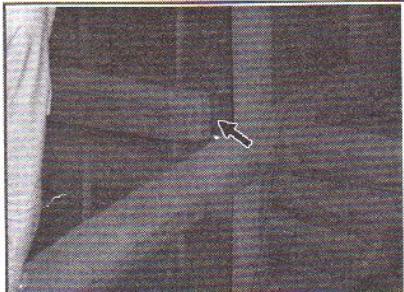
## 【小屋裏の状態】

再度目視調査を行い、雨漏り・腐食がある箇所、屋根下地材の大きさ・位置等の再確認をおこないました。

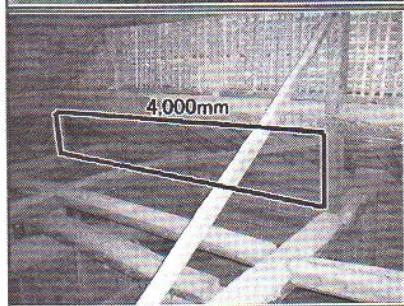
昭和の改修事業の際には瓦のみ葺き替えられたとお聞きしておりますので、現状の小屋裏は大正の改修事業の際に組まれたものかと思われます。

※次ページのそれぞれの写真は右図に記された赤文字の箇所の説明となります。

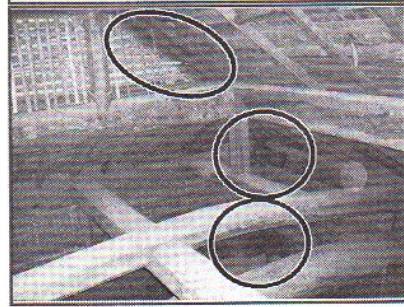


**●梁のズレ**

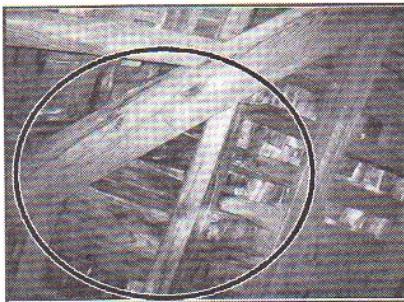
一部の梁に、継ぎ部分が外れる箇所がありました。何らかの原因で本堂全体が動いた際に外れたと考えられます。

**●妻壁**

妻壁の梁に対する束の間隔は4mもあり、非常に広く感じられます。土葺の瓦・土壁の荷重を支えていることを考えると、束に相当の負担がかかっていると思われます。

**●雨漏り跡**

降り棟の位置に雨漏りの跡がみられます。侵入した雨水は桁にまでつたっています。

**●雨漏り・腐食跡①**

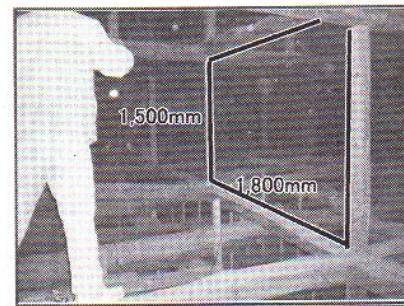
降り棟と隅棟との接合部分の位置に雨漏り跡がみられ、木部は腐食しています。

**●雨漏り・腐食跡②**

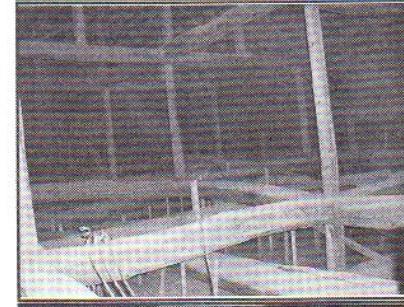
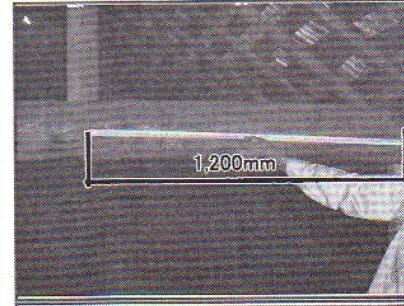
本堂正面側の屋根の中間あたりに雨漏り跡がみられ、一部の木部が腐食して折れています。

**●垂木継ぎのズレ**

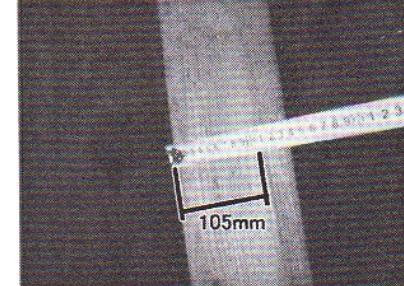
屋根瓦を支える野垂木の継ぎ部分がズレているものがみられます。継ぎ部分の位置が原因と思われます。

**●小屋裏**

小屋裏の梁を支える束の間隔は1,800mmあり、土葺きの瓦屋根を支える小屋組としては広く感じられます。また、束の高さは1,500mmあり、高いように感じられます。

**●小屋裏****●母屋の位置**

母屋の間隔は1,200mmあり、土葺きの瓦屋根を支える母屋の間隔としては広く感じられます。

**●束の巾**

束の巾は105mmで、束の間隔、高さを含めて考へると細い木材を使用しています。

**●野垂木の間隔**

野垂木の間隔は500mmあり、土葺きの瓦屋根を支える垂木の間隔としては広く感じられます。

**●隅木の跡**

桁に化粧隅木の跡がみられます。大正の改修以前の本堂の化粧隅木は現在の2重層の屋根とは異なる形状であったことがわかります。

# 【耐震補強結果～銅板と乾式瓦の屋根の比較】

## 「工事内容の比較」

下記に弘長寺様の本堂に耐震補強を行った場合の、銅板屋根と乾式瓦屋根の屋根重量・必要な仕口ダンパーの数量を記載します。

—基準  
震度6強～7程度の地震が発生した場合での、倒壊を免れる程度の耐震補強内容を基準とします。(簡易耐震診断参照)

—補強内容の比較表

	銅板屋根 (カナメルーフ0.4mm)	乾式瓦屋根 (石州産釉薬和型瓦)
屋根重量 (屋根面積:390m <sup>2</sup> )	5,226kg (既存屋根の約1/11)	25,467kg (既存屋根の約1/2)
仕口ダンパー(北⇒南の揺れに対して)	8箇所	52箇所
仕口ダンパー(東⇒西の揺れに対して)	0箇所	36箇所

※既存屋根の重量は56,472kg(弊社カタログ『社寺地震対策』参照)  
※仕口ダンパーは高さ30cmの既製品となります。



永平寺様 聖寶閣(銅板カナメルーフ)

黒板壁用せんべい一箱です。  
蓋をくみ取つた後は、お手元に紙の黒板壁用せんべいが入ります。